

# 第1回 生涯研修事業運営小委員会の会議概要 (学術・教育・研究委員会小委員会)

**I 日 時** 平成26年3月26日(水) 14:00~16:30

**II 場 所** 日本獣医師会・会議室

## III 出席者

**【委員】** 石黒 直隆 日本獣医公衆衛生学会長、岐阜大学応用生物科学部教授  
岡本 芳晴 鳥取大学農学部教授  
御領 政信 岩手大学農学部共同獣医学科教授  
諸角 元二 とがさき動物病院院長  
山田 英一 山田動物クリニック院長

**【本 会】** 矢ヶ崎忠夫(専務理事)、酒井健夫(学術・教育・研究担当理事)

## IV 議 事

- 1 獣医学術部会の運営等(説明)
- 2 委員長の選任(確認)
- 3 委員会の検討テーマ(説明)  
・獣医師生涯研修事業の整備・充実について
- 4 今後の検討の進め方等(説明・協議)
- 5 「生涯研修事業のページQ&A」の企画担当(協議)

## V 会議概要

開会にあたり矢ヶ崎専務理事から、「年度末の大変お忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。この獣医師生涯研修事業は、平成12年度から自己研鑽の場の提供と研修の進捗状況の確認のための認定システムとして開始され、平成15年度からは本格的に運用しております。本事業への参加者数が減少する中、事業の活性化を図ることを目的として、昨年、本事業の運営委員会から事業内容の改善に向けたご指摘をいただいたところです。本事業は、日本獣医師会の事業活動の中において、人材育成という観点から非常に重要な事業であり、活性化に向けたご意見をいただきたく思います。獣医師会の活動に対してあまり協力的ではない方や獣医師会の会員でない方も、研修会への参加や自己研鑽生涯研修の活動に対しては非常に興味を持っていて、獣医師会の会員である・なしを問わず、獣医師にとっての自己研鑽は重要な案件の一つでありますので、本事業がさらに活性化して獣医師全体のレベルアップにつながるようよろしく願いします。」の旨の挨拶が行われた。

## 1 獣医学術部会の運営等（説明）

事務局から委員の紹介が行われた後、資料に基づき部会委員会等の組織上の位置付け等の説明が行われるとともに、昨年10月28日（月）に開催された「第14回 学術・教育・研究委員会」の会議概要内容が報告され、本委員会の検討結果から、この「生涯研修事業運営小委員会」を設置することとなった経緯等が説明された。

## 2 委員長の選任（確認）

「第14回 学術・教育・研究委員会」において本小委員会の委員長は山田英一委員とされたことが事務局から説明され、山田英一委員の委員長への就任が確認された。

## 3 委員会の検討テーマ（説明）

今期の委員会の検討テーマとして、「獣医師生涯研修事業の整備・充実について」が事務局から説明されるとともに、前期の生涯研修事業運営委員会においてとりまとめが行われた答申の内容、最新の認定プログラム数やポイント申告者数等、最新の研修カリキュラムのほか、事務局が作成した新システムの概要が委員会資料として提出・説明され、内容の確認が行われた。

## 4 今後の検討の進め方等（説明・協議）

山田委員長から、「本日の委員会は現任期の第一回目の委員会であるので、フリートーキングの形で委員の先生方からご意見をいただきたい。」旨が述べられ、以下の意見交換が行われた。

- ア 本事業の認定証の取得にはインセンティブがなく、このことが本事業の申告者減少の原因の一つとなっているのではないかと。
- イ 手数料の支払いを嫌ってこの事業に参加しない獣医師も多く思われるが、逆に、手数料がなければ、この事業への参加を望む獣医師が増えるのではないかと。しかし、手数料を無料とする場合には、実績証明書・修了証・認定証の作成費用等をどこで負担しなければならないかと。
- ウ 産業動物分野・小動物分野・公衆衛生分野の獣医師ごとに、本事業に参加する目的が異なると思われるが、その中で産業動物分野や公衆衛生分野の獣医師にとっては、本事業の申告を行うメリットを感じられない。処遇改善へとつながるように力を入れた方が良いのではないかと。
- エ 事業へ参加することにより待遇が良くなったり給与が上がったりするなどのメリットを感じられないと、事業への積極的な参加は期待できないのではないかと。
- オ 個々の獣医師からの申告受付は地方獣医師会が行うが、地方獣医師会ごとに本事業への熱意には差があり、地方獣医師会内の本事業への参加者数は、この熱意の差に影響を受けることも多いのではないかと。

- カ 各地区獣医師大会や地方獣医師会の総会において、地方獣医師会の会長等から認定証を渡す「認定証授与式」を行えば、盛り上がり期待でき、本事業も注目されるのではないかと。このことを各地区や地方に文書で依頼してはどうか。
- キ 以前に比べて研修カリキュラムが簡略化されてより理解しやすくなったことは評価できる。
- ク 以前は、学会年次大会の開催前に、プログラムが該当する研修カリキュラムを発表していたように、学会年次大会での広報活動を積極的に行ってはどうか。
- ケ 生涯研修事業自体が構成獣医師に忘れられていることも考えられるので、学会年次大会や日本獣医師会雑誌等を介して積極的に本事業の広報を行ってはどうか。
- コ 他の学術団体で会員専用のサイトを設けた際に、多くの会員が ID やパスワードを忘れてしまい専用のサイトを活用できなかったことがあったので、ID やパスワードを忘れても対応できるようなシステムを構築する必要がある。
- サ 新システムでは、研修会等の認定プログラムで「プログラムの個別番号」を受講者に伝え、受講者はこれをシステムに入力することによって実際に受講した確認を行うこととするが、この「プログラムの個別番号」が悪用されないよう、何らかの工夫が必要ではないか。その場合、各獣医師や地方獣医師会等の負担とならないようにする必要がある。
- シ これまで日本獣医師会雑誌に掲載された「生涯研修事業のページQ&A」の冊子化については、これまでの掲載内容を100編程度に絞り、監修・とりまとめを行ってはどうか。

## 5 「生涯研修事業のページQ&A」の企画担当（協議）

日本獣医師会雑誌に掲載している「生涯研修事業のページQ&A」の執筆交渉担当委員について、平成27年6月発行分まで決定した。

## VI まとめ

本委員会は、山田委員長により次のとおり取りまとめられた。

- 1 本日の委員会において出された意見をとりまとめの上、後日各委員に送付すること。
- 2 新システムの作成、生涯研修事業のページQ&Aの冊子化については、事務局から提出された提案内容で作業を進め、次回委員会において今後の進め方について確認を行うこと。
- 3 獣医師生涯研修事業の推進に関してアイデアがある場合は、メールで事務局に送付すること。